

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2023 年 8 月

「神のむすこ娘たち」「放蕩息子 (IV)」「発展する論争」「かぼちゃ豆腐チーズもち」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「放蕩息子 (IV)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「神のむすこ娘たち」

7

Sons and Daughters of God

現代の真理

「キリストが戸をたたいておられる (III)」

39

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「かぼちゃ豆腐チーズもち」

44

レシピ

お話コーナー

「覚えるべき日 (I)」

46

聖書物語

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2023 年 7 月 1 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on
page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

大教師イエス—インマヌエル

キリストの教えは、その同情心と同じように世に行きわたった。どんな生活環境も、どんな人生経験の危機も、キリストの教えの中に道が示され、その原則の中に教訓があたえられている。大教師イエスのみ言葉は、キリストとともに働く者にとって、世の終わりまで、一つの指針となるであろう。

キリストにとっては、現在も未来も、遠いものも近いものも同じであった。キリストはすべての人の必要を念頭に置かれていた。彼の心眼には、人間の努力と業績、試練と戦い、混迷と危険の、あらゆる光景が展開されていた。彼は、どんな心も、どんな家庭も、どんな喜びも楽しみも願いも、すべてご存じであった。

キリストは、すべての人のためにお語りになったばかりでなく、すべての人に向かって話しかけられた。人生の輝かしい朝を迎えたばかりの幼児たちに、熱心でそして何かしないではいられない心をもった若い人たちに、人生の真盛りにあつて、責任と苦勞の重荷を負っている年配の人たちに、疲れ弱っている老人たちに、キリストのみ言葉はすべての人に向かって語られた。それはすべての人に、国と時代を問わず、人類のひとりびとりに向かつて語られた言葉であった。

キリストの教えの中には、現世の事物と永遠の事物、すなわち目に見える事物と目に見えない事物との関係や、日常生活の間に過ぎ去るできごとと、来世の生活の厳粛な問題が含まれていた。

キリストは、この世の事がらをその正しい位置、すなわち永遠の利害関係をもっている事がらの次に置かれた。しかし、彼はこの世の事がらの重要さを軽んじられたのではない。彼は、天と地は共につながりをもっていて、人は、神の真理を知れば知るほど、ますます忠実に日常生活の義務を果たすようになるということを教えられた。

キリストにとっては、目的のないものは何もなかった。子供の遊び、おとなのほねおり、人生のよろこびと心配と苦勞—すべては一つの目的に対する手段であった。その目的とは、人間を高めるために、神を啓示することであった。

キリストのくちびるを通して語られる神のみ言葉は、新しい力と新しい意味をもって、人々の心にふかくいこんだ。キリストの教えによって、創造のわざは、新しい光に照らされた。自然界の面には、罪のために失われていた光の輝きが、もう一度宿った。人生のあらゆる現実と経験を通して、神の教訓があたえられ、神と交わる可能性が示された。神は、もう一度この世に住まわれた。人の心は、神のご臨在を意識し、この世は神の愛につつまれた。天は人のもとにくだった。人々の心は、永遠についての知識を人類に示された神を、キリストの中にみとめた。彼こそは、「インマヌエル、神われらと共にいます」おかたであった。(教育 82, 83)

聖書の教え

放蕩息子 (IV)

罪人は、神から遠く離れて、死んで失われたと考えられています (エペソ 2:1)。罪の生活から回復したとき、彼は生きて見いだされたものとみなされました。

有名な聖書解説者であるラッセル・ノーマン・チャップリンは次のように説明しています。

「ぼろは彼らを取り去られて、最上の着物を着せられました。それは言語のギリシャ語で非常に上質な王子の切るような上着であり、足までとどき、貴賓や重要人物が特別な機会に着るような種類の上着でした。神の子らのために、それがどれほど良いものであるかに関わらず、中古品はないからです。上着は榮譽、承認、昇進を意味しています。わたしたちはキリストを通して備えられる義の衣、聖徒たちの正装が聖潔と高められることを象徴するのを思い起こされます。これは、同じ賛美の衣 (イザヤ 61:3 参照) であり、新しい生活とみなされる義の衣です。すなわち、キリストの命と栄光にあずかること、信徒たちが王や祭司、栄光へ導かれる神の子の地位にあるものとみなされることです。これらはみな、彼が到着したときに来ていたぼろ、すなわち彼がまだ失われた人類を表し、自分自身の目に、あがないなく神から離れていた人であったときの象徴と対照をなしています。

息子に与えられた金の指輪は、彼の父親からの恩寵、つまり、特別な愛情のしるしです。そしてこの場合、父親の愛を示唆しています。…奴隷はそのような指輪を、ましてや金の指輪をはめることはありません。これらの金の指輪は、卓越と富を示唆していました (創世記 41:42 参照)。

青年は奴隷のように、はだして帰って来ました。なぜなら、奴隷は通常くつをはかなかったからです。しかし今彼は自由な人として認められました。こうしてわたしたちはここに自由と榮譽の三重の象徴を見出します。上着、指輪、はきものです。これらは完全な和解の実でした。」 (新約聖書解説 2 巻 155)

イエスは次のように宣言されました。「…そして、奴隷はいつまでも家にいる者ではない。しかし、子はいつまでもいる。だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである」(ヨハネ 8:35-36)。

この救いの祝福について、エレン・ホワイトは次のように記しました。

「神に献身しようとしないう魂はみな、別の権力の支配下にある。彼は彼自身のものではない。彼は自由を口にするかも知れないが、最もあわれむべき奴隷状態にある。彼の心はサタンの支配下にあるので、真理の美しさを見るのがゆるされない。彼は、自分自身の判断の命令に従っているとうぬぼれているが、実は暗黒の君の意思に従っているのである。キリストは、魂を罪の奴隷の束縛から切り離すためにこられた。「だから、もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである」(ヨハネ 8:36)。キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、「われわれを「罪と死との法則から…解放」するのである(ローマ 8:2)。

あがないの働きに強制はない。外部からの圧力は用いられない。神のみたまの影響下にあつて、人はだれに仕えるかを自由に選ぶことができる。魂がキリストに屈服するときに行われる変化の中に、最高の意味の自由がある。罪を追い出すことは、その魂自身の行為である。なるほどわれわれは、サタンの支配からわが身を解放する。罪を追い出すことは、その魂自身の行為である。なるほどわれわれは、サタンの支配からわが身を解放する力はない。だが罪から解放されたいと望み、非常な必要を感じて、われわれ以外の、そしてわれわれ以上の力を求めて叫ぶとき、魂の能力には聖霊の天来の力が吹きこまれ、その能力は神のみこころを成就することにおいて意思の命令に従うのである。

人間の自由が可能であるただ一つの条件は、キリストと一つになることである。「真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」とあるが、キリストがその真理である(ヨハネ 8:32)。罪は、心を弱め、魂の自由を滅ぼすことによるのみ勝利することができる。神に屈服することは、自分自身を回復すること、すなわち人間の真の栄光と威厳とを回復することである。われわれは、神の律法に従うようになったが、それは「自由の律法」である(ヤコブ 2:12)。(各時代の希望中巻 255, 256)

「立って、あなたの天の父に帰りなさい。神は、遠くからあなたを迎えてくださる。あなたが悔い改めて、一歩神に向かって進むならば、神は、永遠の愛の腕にあなたをいどころと走りよられるのである。神の耳は、悔い改めた魂の叫びを聞くために開かれている。人の心が、まず神を求め出したその瞬間を、神は、ご存じである。どのようにためらいがちの祈りであっても、どのようなひそかな涙であっても、どのようなか弱い切なる心の願いであっても、必ず神の霊がそれを迎えに出られるのである。キリストから与えられる恵みは、祈りが口から出て、心の願いが述べられるその以前にすでに、人の心に働いている恵みに合流する。

天の父は、罪に汚れた衣をあなたからぬがせてくださる。ゼカリヤの美しい比喩的預言の中で、大祭司ヨシュアが汚れた衣を着て、主の使いの前に立ち、罪人を代表している。そして、主からみことばがあった。『彼の汚れた衣を脱がせなさい』。またヨシュアに向かって言った、『見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう。』……そこで清い帽子を頭にかぶらせ、衣を彼に着せた（ゼカリヤ書 3:4,5）。そのように神は、あなたに「救いの衣」を着せ、「義の上衣」をまとうせてくださる（イザヤ書 61:10）。「たとい彼らは羊のおりの中にとどまるとも。はとの翼は、しろがねをもっておおわれ、その羽はきらめくこがねをもっておおわれる」（詩篇 68:13）。神は、あなたを祝宴の家に連れて行き、あなたの上に愛の旗をひるがえしてくくださる（雅歌 2:4）。「あなたがもし、わたしの道に歩むならば、「ここに立っている者どもの中に行き来することを得させる」——神のみ座のまわりの聖天使たちの間にさえ立たせると、神は言われるのである（ゼカリヤ書 3:7）。「花婿が花嫁を喜ぶように、あなたの神はあなたを喜ばれる」（イザヤ書 62:5）。「彼はあなたのために喜び楽しみ、その愛によってあなたを新にし、祭の日のようにあなたのために喜び呼ばわれる」（ゼパニヤ書 3:17）。こうして天と地は、天の父の喜びの歌に声を合わせる。「このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。」（キリストの実物教訓 186, 187）

「こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。」（ローマ 8:1, 2）

神のむすこ娘たち

Son and Daughters of God



8月

わたしたちはキリストの十字架に栄光を帰す

十字架に掛けられたキリストを見る

「イエスを十字架につけたのは、朝の九時ごろであった。」(マルコ 15:25)

けがれない神のみ子は、その肉体はむち打ちで裂け、しばしば祝福のうちにさし出されたその手は横木に釘づけられ、愛の奉仕に疲れを知らなかったその足は木にうちつけられ、王の頭はいばらの冠で刺され、ふるえる唇は苦悩の叫びにかたどられて、十字架にかかっておられた。しかもイエスがしのばれたすべてのこと—その頭と手と足から流れた血のしたたり、その肉体を苦しめた苦痛、天父のみ顔がかくされたときにその魂を満たした言いようのない苦悩、—それらは人類の子らのひとりびとりに向かって、神のみ子がこの不義の重荷を負うのを承諾されるのはあなたのためであり、死の支配をたちきって、パラダイスの門を開かれるのはあなたのためであると語っている。荒れ狂う波をしずめて、泡立つ大波の上をあるかたのおかた—が、いけにえとしてご自分を十字架の上にささげられる、しかもそれはあなたを愛されるからである。罪を負うおかたであるイエスが、神の正義の怒りをしのび、あなたのために罪そのものとなられる。

沈黙のうちに、目撃者たちは、この恐るべき光景の結末を見守った。太陽が輝き出たが、十字架はまだ暗黒つつまれていた。祭司たちと役人たちはエルサレムの方を見た。すると見よ、濃い雲が都とユダヤの平原のあたりにかたまっていた。義の太陽、世の光であられるキリストは、かつてはめぐまれた都エルサレムから、その光をひきあげておられた。神の怒りのすさまじいいなずまがこの滅ぶべき都に向けられた。

突然十字架のまわりの暗黒が晴れ、天地にひびきわたるようなはっきりしたラッパの調子で、イエスは「すべてが終った」「父よ、わたしの霊をみ手にゆだねます」と叫ばれた。ひとすじの光が十字架をとりまき、救い主のお顔は太陽のような栄光に輝いた。それから主は頭を胸にたれて、息をひきとられた。各時代の希望下
巻 278、279

すべての人が上げられた救い主へ引き寄せられる

「そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう。」(ヨハネ 12:32)

イエスが十字架にかかれた時ほど、このお方についての全体的な知識が広まったことはそれまでになかった。このお方はすべての人をご自分のもとへ引き寄せるために、地から上げられた。このはりつけの光景を見守り、キリストのみ言葉を聞いた多くの人々の心の中に、真理の光がさし込んだ。彼らはヨハネと共に、「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と宣言する。聖書を探り、聖句と聖句を比較して、キリストの使命の意味を知るまでは決して落ち着かない人々がいた。彼らは惜しめない許しが、全世界を優しい憐れみで包みこまれたお方によって備えられていることを知った。キリストに関する預言と、ユダとエルサレムのために開かれる泉を指し示しつつ、惜しみなく豊かに与えられた約束を彼らは読む。原稿 1897 年

罪の贖罪としてのキリストの犠牲は、他のすべての真理を引き寄せる偉大な真理である。創世記から黙示録までの神のみ言葉の中にある、あらゆる真理を正しく理解し、その価値を認めるためには、カルバリーの十字架から流れ出る光を深く研究し、救い主の贖罪の驚くべき中心真理と結びつけて学ばなければならない。贖い主の驚くべき犠牲を研究する者は恵みと知識に成長する。

私はあなた方の前に、憐れみと再生、救いと贖い、すなわちカルバリーの十字架の上に上げられた神のみ子の広大でいなる記念碑をお見せする。これがあらゆる会話、説教の主題でなければならない。原稿 70、1901 年

イエスは聖霊によって、若者の心も年配の人の心もご自分のもとへと引き寄せておられる。……十字架にかけられたキリストを説く時、福音の力は、それが信者に及ぼす感化力によって、はっきりと示される。不正と罪のうちに死んだままである代りに、彼は目覚めさせられる。ユース・インストラクター 1893 年 1 月 19 日

カルバリーのお方を高く、もっと高く掲げなさい。キリストの十字架を高めるところには力がある。両親、教師、生徒への勧告 p434

十字架を見る者はみな生きる

「モーセは青銅で一つのへびを造り、それをさおの上に掛けて置いた。すべてへびにかまれた者はその青銅のへびを仰いで見て生きた。」(民数記 21:9)

主イエスは荒野にいる毒蛇からイスラエルの子らを守っておられたが、彼らは歴史のこの部分を知らなかった。天からの御使たちが彼らに同行し、キリストは昼は雲の柱の中に、夜は火の柱の中におられて、旅の間中、彼らの保護者であられた。しかし彼らが利己的で不満を抱いたので、ご自分の細心の注意が彼らに向けられていることを忘れないようにと、苦い教訓をお与えになった。主は彼らが恐ろしいへびにかまれるのを許されたけれども、大いなる憐れみのうちに、彼らが滅びるままに放っておかれなかった。モーセはさおの上に青銅のへびをかけ、誰でもそれを見上げて生きるようにと宣言するよう命じられた。見上げた者はみな生きて、ただちに健康を取り戻した。……民をかむへびの形がキリストを象徴するとは何と不思議なことであろうか。この象徴はさおにかけられ、民はこれを見上げなければならなかった。そうすれば生きるのであった。このようにイエスは罪の肉のさまになられ、罪を負う者として来られた。……

同じいやし、生命を与えるメッセージが今も聞こえている。このメッセージは恥ずべき木の上に掲げられた救い主を指さす。年を経たへび悪魔にかまれた者は、見て生きるようにと命じられている。……あなたの義、あなたの犠牲としてイエスだけを見なさい。あなたが信仰によって義とされるなら、死に至らせるへびの刺し傷はいやされる。手紙 55、1895 年

十字架がなければ、人は神と和合することができなかった。私たちのすべての望みは十字架にかかっている。そこに救い主の愛の光が輝いている。罪人が十字架のもとで、彼を救うために死なれたおかたを見上げるときに、彼は満ちたりたよろこびを味わうのである。それは彼の罪が許されたからである。信仰をもって十字架のもとにひざまずくとき、彼は人が到達できる最高の場所に到達しているのである。患難から栄光へ上巻 p226

家庭に立てるべきキリストの十字架

「そこでイエスは言われた、『あなたがたが人の子を上げてしまった後はじめて、わたしがそういう者であること、また、わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えて下さったままを話していたことが、わかってくるであろう』」（ヨハネ 8:28）

キリストは、十字架の上で恥ずべき死を遂げることによって贖われた人々に、掲げられるべきである。キリストの恵みの力を感じた人は、語る話がある。その人はキリストの福音を広める働きを実際に行う。人は知恵の大いなる源から能力を受けつつ、福音が思いと心にその改変させる力を働かせることを通して、器、また働き人になる。……

私たちのすべての力はキリストのために用いなければならない。これは私たち一人一人が神に負っている負債である。キリストとの関係を形造るにあたって、新しくされた人は、神が定めておられた関係に帰ってくるだけである。……彼の義務は遠くても近くても居るその場所にある。その初めの義務は、自分の子供たちと近親者に対してである。より広範囲な外部の人々のために身近な人々をおろそかにすることについては、どのような言い訳もきかない。……

ある家族には家の中に教会がある。互いの愛が心と心を結びつけ、家族の間に存在する一致は、事実上の信心を説くことのできる最も効果的な説教をする。両親が家庭の中で忠実に自分の義務を果たす時、父親は祭司として、母親は家庭伝道者として、自制、矯正、忠告、勧告、指導で神が彼らに満たさせたいと願っておられる領域を満たしている。家庭で自分たちの義務を忠実に行うことによって、彼らは家庭の外で善を行う力を増し加えている。彼らは教会内での働きに、より適した者となっている。自分の小さな群を思慮深く訓練し、子供たちを自分たち自身と神とに結びつけることによって、父親も母親も神との共労者となる。十字架が彼らの家に立てられる。家族一人一人が天の王家の一員、天におられる王の子となるのである。世界総会会報 2 期 1899 年

キリストの尊い血によって贖われる

「あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが……あがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずもしみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。」(ペテロ第一 1:18、19)

イエス・キリストの尊い血で買い戻されたので、すべての魂は尊い。教会への証 5 巻 p623、624

サタンは「。あなたはキリストが救うには、あまりに罪深い者だ」とささやくかもしれない。あなたが本当に罪深く、価値のない者であると認めるかぎり、「贖罪の徳によって、私はキリストを私の救い主であると主張する。私は自分の功績ではなく、私を清めてくださるイエスの尊い血を信頼する」という叫びをもって、誘惑者に立ち向かうことができる。青年への使命 p112 (英文)

あなたは自分自身を誘惑者の力から救うことはできないが、その尊い血の功績を主張する時に誘惑者は震えて、逃げる。教会への証 5 巻 p317

主はあなたを愛しておられる。このお方は地上のどのような結びつきよりも、どのような対象よりもあなたにとって大事な方である。あなたの力であり能力である方のそば近くにいられることがどれほど貴重なことであるかを考えてみなさい。十字架の影を見ないで、心を明るくする義の太陽のあたる十字架の側で生きなさい。手紙 10、1894 年

私たちはキリストの贖罪の血にはばかりことなく近づくべきである。このことを私たちは、罪深い人間にかつて認められた最も尊い特権、最大の祝福と見なさなければならない。けれどもこの大いなる賜物がどれほど理解されていないことであろうか。この流れは何と深く、広く、続いていることであろうか。聖潔を求めて飢え渴いているあらゆる魂に対して、平安と休息があり、聖霊の活気づける感化、またキリストとの気高く幸福で平和な歩みと尊い交わりがある。その時、ああその時私たちは、理性をもって「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と、ヨハネのように言うことができる。このことを話し、祈りなさい。洗われ、清められること、すなわち信じる魂はその愛と徳によって許され、義とされ、清められて神のみ座の前に立つという聖なる歌の主題にきなさい。……その清める徳は信仰に力と活力を、祈りに力を、心からの従順に幸福を与える。手紙 87、1894 年

キリストの血によって清められる

「御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちを清めるのである。」(ヨハネ第一 1:7)

ある人々はユダヤ時代について、憐れみや恵みのない、キリストが抜けている時代であると話す。そのような人々に対しては、サドカイ人に対する「あなたがたは聖書も、神の力についても知らない」と言われたキリストのみ言葉が適用できる。ユダヤ制度の時代は神の力が驚くほどにあらわされた時代であった。神のご臨在のあらわれがあまりに輝かしかったので、有限な人間には負いきれなかった。神の好意を非常に受けていたモーセは「わたしは非常に恐れおののいている」と叫んだ。神は素晴らしい栄光に耐えることができるように、彼を強めて下さったので、山から下るとき、民が見ることのできないほど彼の顔は栄光を反射していた。

.....

犠牲制度そのものはキリストが考案され、世の罪を負い、その贖いのために死なれる、来るべき救い主を象徴するものとして、アダムに与えられた。モーセを通して、キリストは犠牲の供え物に関して、イスラエルの子らにはっきりとした指示をお与えになった。.....キリストを最もよく象徴する汚れのない尊い動物だけが、神への供え物として受け入れられた。.....

イスラエル人は脂肪や血を食べることは禁じられた。.....この掟は犠牲の動物に関してばかりではなく、食物として用いるすべての家畜に適用された。この掟は血を流すことのない罪はないという重大な事実を彼らに印象づけるためであった。.....

神のみ子の血は殺されたいけにえの血によって象徴されており、神は聖なることと通常の事柄との間に、はっきりとした明確な観念が保たれることを望まれた。血は聖なるものであり、神の御子の血を流すことによってのみ、罪のための贖罪があり得るからである。血はまた聖所を民の罪から清めるためにも用いられた。これは罪から清めることのできる唯一のキリストの血を指している。サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1880 年 7 月 15 日

キリストの血による贖罪

「そればかりではなく、わたしたちは、今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。」（ローマ 5:11）

私たちのために血を流し、ご自分を受け入れるすべての魂のために、嘆願し、仲保をしておられるお方のために神に感謝する。「もしわたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しい方であるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちを清めてくださる。」イエス・キリストの血はすべての罪から私たちを清める。……私たちは絶えずイエスの血の功績を自分の前においておかねばならない。生きた信仰によって清められる命、その命をささえる血が私たちの希望である。

私たちはその計り知れない価値をもっともつと認識する必要がある。私たちが良心を清く保ち、神に対して平和を得つつ、信仰によってその価値を求める時、血が私たちのために語る。神のみ座から流れ出る川、すなわち命の川の水は、救い主の復活と生命と切り離すことのできないこの方の許しの血を象徴する。手紙 87、1894 年

殺された鳥の血の中に浸されて、それから自由を得、幸福な生涯を送る、生きている鳥の驚くべき象徴は（レビ記 14:4～8）、私たちの贖罪の象徴である。この儀式は隠れた宝のような真理を探求する者に、死と命を示し、復活と命、そして救い主の許しの血がまぜ合わされていることを教える。鳥は流れる水の上で殺された。流れる水は、世のはじめからほふられた小羊であるキリストの血の清める功績、いつまでも続く流れの象徴である。

私たちはキリストの贖罪の血にはばかりことなく近づかなければならない。私たちはこれを罪深い人間に、かつて認められた最も尊い特権、最大の祝福と見なさなければならない。……この流れは何と深く、広く、続いていることであろうか。聖潔を求めて飢え渴いているあらゆる魂に平安と休息、聖霊の活気づける感化があり、またキリストとの気高い、幸福で平安な歩みとこのお方との尊い交わりがある。SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] I 巻 p1111

キリストの血によって義とされる

「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によって神の怒りから救われるであろう。」(ローマ 5:8、9)

キリストは罪を和解させ、その屈辱、非難、刑罰をみな負われたが、罪を負っている間も信者が神のみ前にしみのない状態でいられるように、永遠の義をもたらされた。……

しかし神の子であると主張しながら、キリストの血だけに頼るよりは、他の依存物に希望をおいている者がたくさんいる。完全な救い主としてのキリストに、まったく頼ろうとする時でさえ、多くの者は自分が何かできると信じていることを何かで表わす。彼らば私はキリストの所へ来るのにふさわしくなることができる前に、しなければならないことがたくさんある」と言う。他の人は「私がすることのできることをすべて最大限度にまでなした時、主イエスは私を助けに来られる」と言う。彼らは自分の魂を救うために、自分自身でなすべきことがたくさんあり、イエスは来られて、欠けている部分をつなぎ合わせ、自分の救いに仕上げの一筆を加えて下さるのだと想像している。これらのあわれな魂は、キリストを完全な救い主として受け入れるまで、神にあつて強くなることはない。彼らは自分の救いになにも加えることはできないのである。

死を与える天使が地を行きめぐった時に、イスラエル人は破滅を逃れるために、殺した小羊の血を入口の柱にふりかけるよう要求された。しかし、もしこの信仰と服従を示す単純な行為を行うかわりに、戸口に障害物を置いて、破壊の天使を閉め出すために、あらゆる予防策を取っていたなら、彼らの骨折りはむだになっていたであろう。……血が入口の柱に見えればそれで十分であった。その家の救いは保証された。救いの働きにおいても同じである。すべての罪から清めるのはイエス・キリストの血である。ユース・インストラクター 1894 年 12 月 6 日

キリストの血の功績を通して、あなたはあらゆる霊的な敵に勝利し、あらゆる品性の欠陥を矯正する。ユース・インストラクター 1884 年 8 月 6 日

キリストの血によって神の子

「兄弟たちよ、こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかりなく聖所にはいることができ、彼の肉体なる幕をとおり、私たちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいって行くことができるのである」(ヘブル 10: 19、20)

キリストは3時から6時の間、すなわち9時から12時の間に十字架に釘づけにされ、午後亡くなられた。これは夕の犠牲を捧げる時間であった。その時、全イスラエル人の目から神の栄光を隠していた宮の幕が上から下へ真つ二つに裂けた。

至聖所の隠されていた栄光は、キリストを通して明らかにされた。このお方はすべての人のために死を忍び、この供え物によって、人の子らは神の子となった。顔おおいなしに、主の栄光を鏡に映すように見つ、キリストにある信者は栄光から栄光へと、主と同じ姿に変えられていく。あらゆるもののうちで最も神聖な至聖所の中で、神の栄光が宿っている恵みのみ座は、キリストを罪のためのあがないの供え物として受け入れるすべての者に向かって開かれており、その仲保を通して彼らは神との親しい交わりに入れられる。幕は引き裂かれ、隔ての壁はくずされ、宗教儀式の一つ一つは無効にされた。キリストの血による功績によって恨みは消し去られた。手紙 230、1907 年

キリストの十字架、世のためのキリストの苦難と死、この方のみがえりと昇天、み父の前での罪人のためのとりなしという単純な物語は、かたくなで罪深い心を砕いて支配し、罪人を悔い改めに至らせる。聖霊は彼の前に物事を新しい光のうちに示すので、罪はそれを償うためには、そのような犠牲を払わなければならない程に、恐ろしい悪であるということに、罪人は気づく。……神の御子の死よりも低い救済策では、人をその犯した罪の結果から救うことはできないとは、何という悲しいことであろうか。なぜこれが人のためになされたのであろうか。それは神が人を愛しておられ、人が滅びることを望まず、悔い改めに至り、イエスを個人的な救い主として信じ、永遠の生命を持つことを望んでおられるからである。ユース・インストラクター 1893 年 1 月 19 日

キリストの死によって和解を受ける

「もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう。」(ローマ 5:10)

十字架には文字が書き表わすことのできない力が備わっている。人類のためになされたキリストの犠牲は、人類に向かい合い高めるための、すなわちイエスを見出すために罪深い男女を助けるための私たちのわずかな努力と方法によって辱められる。

神の息子、娘の働きは多数の者がしていたこととは違う性質のものである。彼らがイエスを愛するなら、墮落した人類のためにあらわされたその愛、人類を救うために、これほどまでに高価な供え物を用意するようにと要求したほどの愛に対する観念はもっと深くなる。救い主は神の息子娘となったアダムの子孫一人一人に協力を求められる。……私たちの救い主は、天から永遠の命を寄贈として持ってきたと宣言される。このお方はすべての人をご自分のもとへ引き寄せるために、カルバリーの十字架の上にあげられなければならなかった。そうであるなら私たちはキリストの買い戻された嗣業をどのように取り扱うのだろうか。優しさ、感謝、親切、同情そして愛が彼らに示されなければならない。その時私たちは互いに助けまた祝福するために働くことができる。私たちは天の御使たちのような気高く親密な交際をする。

御使たちはあらゆる階級を教え導く働きにおいて私たちと協力する。私たちの贖いという働き、驚くべき働きにたずさわるにあたって、み父との会議でキリストは、費用がかかるけれども何一つ取り分けておかないこと、また、憐れな罪人を救い出すために、見積もりが高くなるけれども何も差し控えることはしないと決心された。このお方は神の道徳上のかたちを人間のうちに回復するという、この救いの働きのために全天をお与えになった。……神の子であるということは神にあつてキリストと共にいる者であるということであり、自分の罪で滅びつつある魂を力づけ祝福するために、熱心で献身的な愛をもって手を差し伸べることである。手紙 10,1897 年

キリストは私たちを永遠の死から救い出された

「神はこのような死の危険から、わたしたちを救い出して下さった、また救い出して下さるであろう。わたしたちは、神が今後も救い出して下さることを望んでいる。」(コリント第二 1:10)

私たちの救い主は、人が取り囲まれているあらゆる誘惑を人間の性質をもって耐えるために、この世へ来られた。ご自分の生涯で、欺き、魅惑し、破壊しようとする悪賢い敵の力に対応された。人類の贖い主として、このお方は人類に、狭い道からそらそうと導くものを求めないよう警告された。王家の一員となるために準備をするすべての者のために、救い主が用意しに行かれた天の住居に向かって、旅をしている人々のために、このお方は栄光の大路に土を盛られた。……

キリストはご自身の生命ですべての人間を買い取られた。人類を永遠の死から救い出すために残酷な死を遂げられたのである。神の生命で量る、永遠の生命を罪人に得させるために、ご自身の罪のない生命をお与えになったのである。ご自分の死を通して、このお方は、人がサタンと別れ、神に対する忠誠を尽くすために帰ることができ、贖い主のうちにある信仰を通して、許しを得ることのできる道を備えられた。……

天と地における一切の権威を持つておられる方は悔い改め、信じる魂をみな回復される。ご自分を受け入れる人々には神の子となる力をお与えになるのである。誰一人として永遠に失われてしまわないようにと、ご自身の生命で代価を払われたので、あらゆる魂に深い関心をよせられる。手紙 264、1903 年

キリストの僕はあらゆる誘惑に対応し、それらに勝利することができるし、しなければならない。彼らは「わたしは自分自身のものではない。代価を払って買い取られたのである。キリストは私のために無限の犠牲を払われて、ご自分が要求する以上のことを、私たちの能力を越えてしてください。このお方は私を、体も魂も霊も買い取られたので、すべてはこのお方のものである。キリストは私の時間も能力もすべて求めておられる」と言わなければならない。世界総会会報 2 期 1899 年

このお方を受け入れ、信じる者は霊的に神の子となる。彼らは王家に養子とされ、神のみ旨を行おうと求める時に神のかたちに一致するようになる。手紙 264 1903 年

十字架だけを誇る

「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。」(ガラテヤ 6:14)

キリストの十字架、どれほどの人がそのあるべき姿でこれを信じているであろうか。どれほど多くの人が自分の研究にこの主題を取り入れ、その真の意義を知っているだろうか。この世でキリストの十字架なしにクリスチャンではあり得ない。……世の手本から離れ、偉大な人物であると自称している人をほめそやすのを止めて、キリストの十字架を不用にするあらゆることについての誉れから思いをそらしなさい。パウロは「わたしたちの主イエス・キリスト以外に私が誇りとするものがあることを神は禁じておられる」と言った。社会的地位がどうであろうとすべての者に、キリストの十字架だけを誇ることがどういう意味であるかを理解させなさい。この十字架は雄々しく男らしく負うべきものである。キリストは「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と宣言される。そして十字架を取り上げ、キリストに従って、それを負うすべての人にとって、十字架は決して色あせることのない栄光の冠についての約束である。……

これは私たちが学ぶことのできる最高の科学、すなわち救いの科学である。カルバリーの十字架は正しく評価するなら真の哲学、純潔で汚れのない宗教であり、これを信じるすべての人にとって永遠の命である。勤勉な努力によって、教訓に教訓、規則に規則、ここにも少し、そこにも少し、これを思いに印象づけるべきである。

……キリストの十字架はパウロの時代と同じく有効であり、偉大な使徒がこれを理解したように、完全に理解されなければならない。……

あなたが安全に栄光を帰すことのできる唯一のものは、神の都の門をあなたのために開くものであることを知りなさい。神のみ言葉から、あなたが求めている国にふさわしい品性をどのように形造るのかを学びなさい。

キリストがあなたの方で十分に述べられるべきであることを知りなさい。そして、アダムによって失われたすべてのものを、キリストの十字架は、信じるすべての魂に、完全に回復して下さることを知りなさい。ユース・インストラクター 1898 年 7 月 7 日

人を誇ってはならない

「『主は知者たちの論議のむなしいことをご存知である』と書いてある。だからだれも人間を誇ってはいけない。』（コリント第一 3:20、21）

私たちは不道德な時代に生きており、大人も若者も罪を犯すことに大胆である。私たちの若者たちが神聖に守られ、堅固な原則で防備を強化しない限り、また友人を選び、思いを養う学問を選ぶにあたってもっと注意を払わない限り、ソドムの住民の道德観と同じように、道德が墮落している社会にさらされる。……私たちの若者は至るところで誘惑に会うので、人間が与えることのできる力や教育よりも、もっと崇高な力、もっと崇高な教えによりすごすることを教えなければならない。至る所に私たちの主をさげすみ、きまってキリスト教に侮辱を投げかける人々がいる。……道德力を持っていない人は、真理を守って立つことはできず、「そのような会話を止めないかぎり、私はあなたの前にいることはできません。世の贖い主であるイエスは私の救い主です。このお方のうちに私の永遠の生命についての希望が集中しているのです」という勇気がない。しかしこの言葉がその人々を沈黙させる方法そのものである。もしあなたが彼らと議論するなら、彼らはあなたに会えば議論をし、あなたは彼らの心にふれる言葉を一言も言うことができない。しかしあなたがキリストのために生きるなら、また天におられる神に堅く忠誠を尽くすなら、議論では失敗することを、彼らのために行うことができる。……

キリストの血で買い取られた者が、神に栄光を帰すことのできるタラントを委ねられていながら、福音の中で自分に慈悲深く送られたメッセージをないがしろにして、キリストの神性を否定したり、自分自身の有限な推論に頼ったり、また、土台のない議論に頼ることほど悲しむべき惨状はない。苦しみの試練を受けた時、死に直面する事態に陥った時、自分が大切にしていたこれらの誤った推論はみな、日光にあたった霜のように溶けさってしまう。……クリスチャンの希望は魂に対する錨のように確実であり不動である。サイズ・オブ・ザ・タイムズ 1890 年 4 月 21 日

世の知恵を誇ってはならない

「知恵ある人はその知恵を誇ってはならない」(エレミヤ 9:23)

人は自分の知恵や力、また富を喜ぶのではなく、自分にキリストについての知識があるという事実を喜ぶべきである。この知識は、私たちが持つことのできる最もすぐれた、また尊い知識である。「永遠の命とは、唯一のまことの神でいますあなたと、またあなたからつかわされたイエス・キリストを知ることです」というみ言葉により、これは永遠の命についての約束である。金銭はこれを買うことができず、知性もこれをつかみ取ることができず、権力もこれを支配することができないが、これを受け入れるすべての者に対して神の輝かしい恵みはただで与えられる。人は自分の必要を感じ、自分に頼ることをすべて止める人だけが救いを賜物として受けることができるのである。天国へ入る者は壩を自分自身の義によってよじ登るのではなく、金や銀という高価な供え物のゆえに門を開けてもらうのでもなく、キリストの十字架の功績を通して、み父の家にあるたくさんの住居へ入る許可を得るのである。……

自己義認はキリストの必要を感じない。だから、キリストのみ名を公言する者が自分自身の知恵と善とをほめそやす時、自分がこのお方のことを知っていないという証拠を示す。キリストが魂に明らかにされるとすぐに、罪人は自分の唯一の希望は罪のためのあがないの供え物である、神の小羊のうちにあることを感じる。キリストが彼の前にご自分の愛を開き始められると、その効果を眺め、それが何であるかを知る。キリストの愛を知らない多くの人がこの経験を求める。しかしもしこの愛が自分自身をへり下って見るようにその人を導くなら……天の報酬は、世的な財産よりも自分にとって価値のあるものであるということを示すなら、キリストからの命の光がその人の魂を照らしているのを知ることができる。ビュー・アード・ヘルド 1887年3月15日

キリストから離れては、どのような形であっても人間の知恵は愚かなものである。なぜなら人間の知恵に頼る者はあてがはずれて永遠の世界を失うからである。……イエスによって神のもとへ来るすべての者を、最大限にまで救うことがおできになる方として、イエスを信じるすべての人にとって、福音は神の知恵と力である。ユース・インストラクター 1893年1月19日

富を誇ってはならない

「富める者はその富を誇ってはならない。」(エレミヤ 9:23)

金持ちは自分の富を誇ってはならない。もし私たちが世的なものに自分の愛情を留めるなら、キリストをあがめるのに失敗する。サタンは私たちがこの世の事柄に没頭し続け、もっと気高い人生を見失うよう願っているが、私たちは彼のたくらみに屈するわけにはゆかない。キリストはあらゆる霊的な祝福の源であると同様、この世のあらゆる祝福の源でもあられる。このお方が私たちに富を与えて下さったのであれば、私たちはその富を自分のものであると主張はできないのである。「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ自分のため……天に宝をたくわえなさい。」パウロはキリストを勝ち取ることができるゆえにいつさいのものを損と思った。

しかし救い主が私たちの財産と奉仕を呼び求められる時、自分は神に従うことはできないと考え、地上の宝を持ちつづけて、その宝のそばにとどまろうと決心する人がたくさんいる。……

キリストのみ座のまわりに立ち、その義の衣を着せられることを願っている人々は、どうして神を信頼せず、自分が欠乏するがままに神は放っておかれると、恐れたりできるだろうか。彼らの信仰はどこにあるのか。私たちの天父がカラスを養われるのであれば、私たちはもっと養われるのではないだろうか。……私たちがキリストについて正しい見解をもっているなら……何ものにも、自分とこのお方との間を妨げることを許さないのである。……自分が世に対してどれほど近く生きながら、なお天国をも得ることができるかを知るために研究する者は、ちょうど天国から閉め出されるところへ来るのである。もし私たちが苦難を受けたお方と共にそのみ座に座りたいのなら、宗教上の苦難も受け入れなければならない。ビュー・アンド・ハルド 1887年3月15日

財産を得ることが私たちにとって合法的であるかぎり、私たちの持っている金銭は、浪費するのではなく、主の奉仕に費やすべきものとして、ただ委託されたという意味において自分たちのものとみなされるべきである。私たちの司令官の命令に従い、自分自身のために天に宝をたくわえることが私たちの断固とした目的でなければならない。そうすればこの世のものがすべて滅びる時に、私たちは失敗することのない天国に宝を持つ。原稿 29 1886年

自分自身を誇ってはならない

「誇る者はこれを誇とせよ。すなわち、さとくあって、わたしを知っていること、わたしが主であることを」（エレミヤ 9:24）

自分の功績を誇ることは、すべて見当違いである。刊抄の実物教訓 p379

戒めは、自分自身を誇りとするのではなく、神を誇りとせよということである。……そうすれば自分自身を誇りとする土壤がそこにはないのである。自分が楽しむあらゆる祝福に対し、また持っているあらゆる良い特性についても人はキリストの恵みのおかげをこうむっている。誰も知恵や義をもっていると自分を高めるべきではない。……

神の事柄に最も深い経験を持っている人々は、自尊心や自己称揚からは一番遠く離れているのである。彼らは自己については最もへりくだった思いを持ち、キリストの栄光と卓越については最高の概念を持つ。……私たちが目を天国にくぎづけにする時、またキリストの品性についてはっきりとした見解を持っている時、心のうちで主なる神をたたえる。

人が贖い主の歴史を知るとなると、自分自身のうちに重大な欠陥を発見する。キリストにあまりにも似ていないので、自分の人生に徹底的な変化が必要であることが分かる。それで彼は偉大な模範であられる方に似た者になりたいという願いをもって研究する。愛する主の容貌、精神を捕らえる。見つめることによって……彼は同じ姿に変えられるのである。

私たちがイエスの生涯を真似るのは、このお方から目をそらすことによってではなく、完全なお手本である方に近づくために、このお方について話し、その完全さを熟考し、嗜好を洗練し、品性を高めようとし、信仰と愛を通して、努力することにより、また熱心な忍耐強い努力によるのである。キリストについての知識、すなわちそのみ言葉、その習慣、その訓戒の教訓についての知識を持つことによって、自分が非常に綿密に研究した品性の徳を取り入れ、私たちは心から感嘆してきた精神を吹き込まれる。イエスは私たちにとって「万人にぬぎんで」「ことごとく美しい」お方となる。レビュー・アンド・ヘラルド 1887年3月15日

タラントや影響力を誇らない

「語る者は、神の御言を語る者にふさわしく語り、奉仕する者は、神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである。それは、すべてのことにおいてイエス・キリストによって、神があがめられるためである。栄光と力とが世々限りなく、彼にあるように、」（ペテロ第一 4:11）

キリストは私たちの模範であり、キリストに従う者は暗闇の中を歩くことはない。自分自身の快樂を求めないからである。神に栄光を帰すことが彼らの生涯の絶え間ない目的である。……しかし財産や影響力というタラントを委ねられた多くの者がどれほどこの模範を見失い、世の標準に従ってしまったことであろうか。……多額の金銭を得る祝福にあずかった男女、また家や土地を持つという祝福を与えられた男女が、一般に子供たちを怠惰

な生活と利己的な放縦へ向かうままにさせる。このようにして子供たちはこの世で役に立たない者となり、未来の不死の生活にふさわしくない者となるのである。……

今日の若者は人を人そのものにするのは金銭であると信じるように教育されている。ユース・インストラクター 1894 年 10 月 18 日

私たちの力は教育や財産というタラントによるのではなく、人気にあるのではない。それはイエス・キリストに対する自発的な従順、自己犠牲にある。真にすべてをキリストに捧げる者は、光の中を歩くので強い影響力を持ち、他の人を感服させる。神の前では脳も金銭もその力を失ってしまう。しかし心の力、完全な信心、へりくだった忠誠は抵抗できない強い影響力を持つ。ユース・インストラクター 1894 年 9 月 6 日

私たちはあますところなく神に自分自身を捧げないのだろうか。栄光の王なるキリストは、私たちのための贖いの供え物としてご自身を与えられた。私たちはみすばらしい価値のない自分自身を、また、自分の時間や所有物をイエスに差し出すのはあまりにもったいないと考えるのだろうか。そうではない。心の奥底にある崇敬の念、熟練した手のわざ、自分の能力や財産というタラントこれらすべては、ほふられ、その血によって、神のためにあらゆる部族、国語、民族、国民の中から私たちを贖われたお方に差し出すには、あまりにみすばらしい供え物である。ビュー・アンド・ヘラルド 1887 年 3 月 15 日

キリストの復活を誇る

「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。」(ヨハネ 11:25、26)

キリストの処刑の後、祭司や司たちは、自分たちが期待していたような勝利感を感じなかった。彼らは偉大な教師である方の声を沈黙させることに成功したのを喜ばず、恐れていたのである。すでにこのお方の死はその生涯と品性に注意を引いていた。祭司は、復讐するという自分たちの企てが失敗したことを悟らされていたので、生きていた時のキリストを恐れていたときよりも、もっと亡くなっているキリストを恐れた。……

天からの光が墓を取り囲み、全天は天使の栄光で明るくされた。天使が墓に近づいて、大きな石を小石のようころがすとその上に座った。天使の声が聞こえると、神のみ子は出てこられる。「み父があなたを呼んでおられます」するとイエスは力強い征服者の足どりで墓から出てこられた。天の家族はこのお方を迎えようと待っていたので、勝利の喜びがわきあがり、天軍を引きつれた力強い天使が、ヨセフの借り物の墓の上で「わたしはよみがえりであり命である」と宣言された天の大君であるお方の前に崇敬の念をもってひざまずいた。ユース・インストラクター 1898 年 7 月 28 日

あらゆる被造物は神のみ旨と力によって生きる。彼らは神の御子の命を受けているものである。能力やタラントがあったとしても、才能が豊かであっても、彼らは生命の源から生命を新しく補給されている。このお方は生命の泉であり源泉であられる。……このお方は人性をとって捨てられた生命を、再び取り上げ、人類にお与えになった。「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである」と仰せになる。……

キリストは人類と一つになられた。それは人類が聖霊にあつて一つとなり、キリストと共に命となるためであった。神のみ言葉に対する従順のうちに、この結合の徳により、キリストの命は民の命となる。このお方は悔い改める者に「わたしはよみがえりであり命である」と仰せになる。ユース・インストラクター 1898 年 8 月 4 日

言い尽くせない賜物のゆえに神に感謝する

「言いつくせない賜物のゆえに、神に感謝する。」(コリント第二 9:15)

非常に多くの人が価のつけられない供え物を拒んだゆえに、すなわち神が世に与えることのできた最高の賜物を拒んだために、人類は終わりの日に恐ろしい記録に直面しなければならない。すべて私たちの祝福が来るのは、キリストの計り知れない賜物を通してである。生命、健康、友、理性、幸福はキリストの功績を通して私たちのものである。ああ、若者も年配の者も、すべては、キリストの命と死の徳を通して自分たちに来ることに気づき、神の所有権を認識できるとよいのに。

使徒は「あなたはあなた自身のものではない」と書いている。私たちが残酷な主人の支配下にいた時でさえ、暗黒の君が私たちの精神を思いのままにしていた時でさえ、主イエス・キリストは私たちのためにご自身の血によってあがないしを払われた。……このお方に心からの奉仕をささげなさい。そしてこれ以上神ご自身のものを神から奪ってはならない。「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は私たちの主キリスト・イエスにお

ける永遠のいのちである。」……

キリストの聖なるみ言葉を通し、そのみ摂理を通し、その僕によってあなた方に送られたメッセージを通して、イエスは日毎に「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいつ彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう」とあなたに話しかけておられる。イエスはあなたのためにご自身の尊い生命を与えられた。それはあなたが神性にあずかる者となり、肉欲を通して世に存在する堕落から逃れるためである。それだから、感謝にあふれる愛のあかしとして、あなた自身をイエスに捧げなさい。キリストが私たちにただで与えて下さった愛がなければ、私たちは今希望のない絶望、霊的な真夜中にいたはずである。イエスを私たちに与えて下さったことを日々神に感謝しなさい。ユース・インストラクター 1894 年 4 月 26 日

永遠の生命という賜物を私たちに得させるためにキリストが死なれたという思想は、最もまじめで熱烈な感謝の気持ちを私たちの心におこさせ、唇から、この上なく熱心な賛美をあふれさせるのに十分である。ビュー・アソド・ヘラルド 1881 年 9 月 20 日

キリストはみ父へ近づく唯一の方法

「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。」（ヘブル 7:25）

神は人とどのように和解されるのだろうか。それは人と神の許す愛との間を妨げるあらゆるものをわきへ置くお方、イエス・キリストの働きと功績による。人が犯した律法は、墮落している罪人の状態に合わせるために変更されるものではなく、エホバのご品性の写しとして、すなわちこのお方の聖なるみ旨の説明として表わされ、イエス・キリストの生涯と品性のうちに高められ、拡大されている。今はまだ救いの道は備えられている。しみのない神の小羊が世の罪を取り除くお方としてあらわされているからである。イエスは罪人の立場に立って、違反者の罪をご自身に引き受けて下さる。罪人の身代わり、また保証人を見上げることにより、主エホバは義であることができ、なおかつイエスを信じる者を義とすることがおできになる。キリストを自分の義として、また唯一の希望として受け入れる者に許しが備えられている。神はキリストにあつて世をご自分に和解させておられるからである。神の律法によっては認された正義、真理そしてキリストの神聖は、悔い改め信じる罪人に恵みが伝えられる通路を形成する。

キリストを信じない者は神と一致することはない。しかしキリストを信じる信仰を持つ者はこのお方と共に神のうちに隠れる。「もしわたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。ユース・インストラクター 1894 年 11 月 29 日

このお方は、悔い改めて、神に忠誠を尽くすためにたち帰るすべての罪人のために、救いを確保するため、罪を負い、十字架上で亡くなられた。キリストを通してのみ私たちはみ父に近づくことができる。手紙 29、1900 年

イエスは「わたしに来る者を決して拒みはしない」と仰せになる。キリストは律法に違反した者の罪をご自分に引き受け、ご自身の義を違反者に着せて、ご自分の変化させる恵みによって、この人を天使の仲間に加え、神と交わることのできる者として下さる。ユース・インストラクター 1893 年 1 月 19 日

十字架と律法

「知恵のある者はだれか。その人にこれらのことを悟らせよ。悟りある者はだれか。その人にこれらのことを知らせよ。主の道は直く、正しき者はこれを歩む。しかし罪びとはこれにつまずく。」(ホセア 14:9)

十字架は天軍に、墮落していない世界に、そして墮落した世界に向かって、神が人の上におかれた価値と神が私たちを愛されたその大いなる愛について語っている。神の律法が不変であることを世界と天使たちそして人に示している。ビュアド・ヘルド 1899 年 5 月 23 日

キリストの死は、神の律法がそのみ座と同様変更できないことを納得させる証拠となるべきであった。……人の保証人である神ご自身の御子をさえ、差し控えないで渡されたという事実は、神がご自分の律法の違反者を大目に見ることは決してないことを聖徒と罪人また神の宇宙の前で永遠にあかしするものである。神の律法に対する違反はどのようなものであっても、ささいなことであっても審判の日に清算される。そして正義の剣を手にはされると、その剣は受難者キリストに対してなされたことを、悔い改めない違反者に向かって行う。SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 p1166

キリストの着せられた義を通して、罪人は自分が許されたことを感じることで、律法がこれ以上自分を責めないことを知る。なぜなら自分が律法のあらゆる規律に調和しているからである。彼が不信仰な者や罪深い者の上にくだる報いについて読み、また考える時に、自分自身を無罪だと思うのは彼の特権である。信仰によって彼はキリストの義をつかむ。……自分自身が罪人、神の聖なる律法の違反者であると知ることにより、彼はキリストの完全な従順を見、またカルバリーでの、世の罪のための死を見て、自分がキリストの功績と犠牲によって、信仰により義とされるという保証を得る。彼は自分のために神の御子が律法に従われたので、違反の罰は信じる罪人の上にふりかかることはできないことに気づく。キリストの自発的な服従は信じる罪人に、律法の要求を満たす義を着せる。ユース・インストラクター 1894 年 11 月 29 日

十字架は自然を理解させる

「主よ、あなたはみわざをもってわたしを樂しませられました。わたしはあなたのみ手のわざを喜び歌います。」(詩篇 92:4)

今日、人間は自然が教えるところを自分で正しく読みとることができない。神の知恵に導かれなければ、人間は、自然を造られた神よりも、自然界や自然の法則をあがめるにいたる。科学に関する人間の考えがしばしば神のみ言葉の教えに矛盾するのはこうした理由による。しかし、キリストのいのちの光を受ける人々には自然界が再び光で照らされるのである。十字架から輝く光によってわたしたちは自然の教訓を正しく解釈することができる。ミストリー・オブ・ヒーリング p444

贖いの計画の中には、人間の思いでは理解のできない神秘がある。すなわち人間の知恵では説明できないことを、自然は信心の奥義に関して私たちに多くのことを教えることができる。それゆえできる限り、青年に自然という教科書から学ばせなさい。あらゆる灌木、実を結ぶあらゆる木、あらゆる植物は私たちの益となるために与えられている。神の王国の神秘は種の成長のたとえで読まねばならない。……神は自然が人を不従順の道から神のもとへと引き返すよう導くための教科書であるようにと、計画された。聖霊の導きのもとに、自然について綿密な研究が必要である。主は実物教訓を与えておられる。自然界の最も単純な事柄を通して、人の思いに聖なる真理を親しいものとしておられる。ユース・インストラクター 1897年5月6日

陽の光の一筋一筋に、美味しい料理のどれにも、またひとしずくの水も贖いの愛の賜物であり、罪人を神へ和解させるよう嘆願する。原稿 44 日時未記

太陽と月はこのお方によって造られた。天を飾る星はこのお方が造られたものである。食卓に並べられる食品はみな、私たちの生命を維持するために神が備えてくださったものである。神の印と銘はすべてのものの上にある。すべてのものが含まれており、神のひとり子という言い表すことのできない賜物を通して、すべてのものが含まれており、人に豊かに供給されている。手紙 79、1897年

私たちのためにキリストは十字架を忍ばれた

「おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。」(ピリピ 2:8)

ご自分の前におかれていた喜びのゆえに、キリストは恥をもちとわないで十字架を忍び、神のみ座の右に永遠に座するに至られた。このお方は世のための犠牲として十字架にかかって死なれた。そしてこの犠牲を通して神がお与えになることのできる最高の祝福、すなわち聖霊という賜物が与えられる。この祝福はキリストを受け入れるすべての者のためである。

墮落した世界は全天と地上の勢力とのかつて目撃したなかで最大の戦いの戦場である。善と悪、天国と地獄の間の壮大な戦闘に決着をつける舞台として指定されている。あらゆる人間はこの争闘で役割を演じる。誰も中立の立場に立つことはできない。人は世の贖い主を受け入れるか拒むかのどちらかでなければならない。全員がキリストの側かあるいは敵対する側の証人である。キリストは、忠実な兵士としてご自分と共にこの闘争に従事するために、ご自分の旗のもとに立つ人々を召しておられる。それは彼らが命の冠を相続することができるためである。彼らは神の息子、娘として養子にされている。キリストはご自分のへりくだりと真理のための苦難にあずかる人々について、天の王国での報いは大いなるものであるとの確かな約束を彼らに残された。

カルバリーの十字架はあらゆる地上と地獄の勢力に挑戦し、ついには打ち負かす。十字架にすべての感化力は集中し、ここからすべての感化力が出て行く。十字架は引きつける力の大きな中心である。なぜならこの上でキリストが人類のためにご自分の命を捨てられたからである。この犠牲は人をその初めの完全へと回復するという目的のために捧げられた。その通りであるがそれ以上である。この犠牲は人を勝利者以上の者とするにより、品性の完全な変化を彼に与えるためになされた。キリストの力のうちにおり、神と人の大敵に打ち勝つ人々は、天の宮廷で、墮落したことのない天使よりも高くしていただける。世界総会会報 2 期 1899 年

いつくしみと義とは十字架で会う

「いつくしみと、まこととは共に会い、義と平和とは互に口づけし、」（詩篇 85:10）

義といつくしみは幅広い深淵で分けられて、互いに対立して離れて立った。主なる私たちの贖い主はご自身の神性を人性でおおわれて、人のためにしみもしもない品性を貫き通された。このお方はご自分の十字架を天と地の真中に立て、義といつくしみが淵を越えて互いに引き寄せながら相方に届く魅力の対象とされた。……そこで十字架はあらゆる不法と罪による刑罰を負っておられる神と等しいお方を見た。完全に満たされた正義は、それで十分であると言いながら、十字架に崇敬の念をもってひざまずく。

私たちのために捧げられた供え物によって、私たちは有利な立場に置かれる。罪の同盟からキリストの力によって引き上げられた罪人は掲げられた十字架に近づき、その前にひれ伏す。その時キリスト・イエスにあつて新しい被造物となる。罪人は清められ純潔にされる。

新しい心が彼に与えられる。聖潔は要求に対してこれ以上のものはないことを知る。贖いの働きは、人の思いが及ばない結果をもたらす観念を含んでいる。神のかたちに一致しようと努力している人間に、天の宝が分け与えられ、墮落したことのない天使よりも高くして下さる卓越した力をくださる。戦いが行われて、勝利が得られた。罪と義の争闘は天の主をたたえ、救われた人類家族の前に、墮落していない世界の前に大なる者から小さい者にいたるまで悪を働く全軍の前に、神の神聖、いつくしみ、そして知恵を打ち立てた。世界総会会報 4 期 1899 年

十字架上のキリストはいつくしみとまことが共に会い、義と平和とが互いに口づけするところであられた。世界総会会報 2 期 1899 年

この賜物の偉大さは時代を越え、永遠に続く感謝と賛美の主題を人に提供するものであった。ユース・インストラクター 1894 年 12 月 13 日

十字架はサタンの統制を暴露する

「そして、もろもろの支配と権威との武装を解除し、キリストにあって凱旋し、彼らをその行列に加えて、さらしものとされたのである。」(コロサイ 2:15)

カルバリーの十字架に、愛と利己心が向かい合って立った。ここにこの両者の最高のあらわれがあった。キリストは慰め、祝福するためだけに生活された。ところがサタンはキリストを死なせることによって神に対する憎悪という悪意をあらわした。サタンは彼の反逆の真の目的が神をみ座から退けることと、神の愛を現されたキリストを滅ぼすことにあることを明らかにした。

キリストの一生と死によって人の思いもまた明るみに出た。馬ぶねから十字架にいたるまで、キリストの一生は克己への呼びかけであり、苦難を共にするようにとの呼びかけであった。それは人々の意図をあらわした。

イエスは天の真理をもつておいでになったが、聖霊の声をきいていた者はみなキリストにひきつけられた。自我をおがんでいた者はサタンの王国に属した。キリストに対する態度を通してみな自分がどちらの側に立っているかをあらわした。このようにして人はみな自分で自分に宣告をくだすのである。

最後の審判の日に、失われた魂はみな自分が真理を拒んだことがどういうことであつたかをさとり。十字架が示されると、罪とがのために心が盲目になっていた者がみな十字架の真の意義をさとり。神秘的な犠牲者イエスのカルバリーの光景を前にして、罪人は有罪の宣告を受ける。あらゆるいつわりの口実は一掃される。人類の背信はその憎むべき性格のままにあらわされる。人々は自分たちの選択がどんなものであつたかを知る。……

すべての人の心の思いが明らかにされるとき、神の忠実な者たちも反逆した者たちも声をそろえて、「万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります。主よ、あなたをおそれず、み名をほめたたえない者が、ありましようか。……あなたの正しいさばきが、あらわれるに至ったからであります」と宣言する。各時代の希望
上巻 p47

地は天という大陸から切り離され、その交わりから遠ざけられたけれども、イエスはそれを再び栄光の身分をもって結び合わされた。サインズ・オブ・ザ・タイムズ
1887年11月24日

日毎に十字架を負わねばならない

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」(ルカ 9:23)

人を罪の強い同盟から引き離すことができるのは十字架の力だけである。キリストは罪人を救う為にご自分を捧げられた。罪が許され、イエスを愛する人々は、このお方と一体になる。キリストのくびきを身に負う。このくびきは彼らの身動きをとれなくするのではなく、その宗教生活を、満足を与えない骨折り仕事の一つにするのでもない。そうではなく、キリストのくびきは、それによってクリスチャン生活が楽しみと喜びになる方法そのものとなるのである。クリスチャンは、主が「御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るため」に、世のために死ぬようにとそのひとり子を賜わることで果されたことを、瞑想して喜びに満たされる。

インマヌエルの血染めの旗のもとに立つ人々は、キリストの軍隊の忠実な兵士でなければならない。彼らは決して不忠実であったり、不実であってはならない。若者の多くは自発的に命の君イエスと共に立つことを申し出る。しかし彼らがこの方と共に立ち続けたいのなら、たえず自分たちの司令官イエスの命令を求めて、見つめていなければならない。彼らはキリストの兵士でありながら、サタンの群れと同盟し、そちら側を助けることはできない。キリストの敵となるからである。彼らは聖なる信頼を裏切ることになる。ユース・インストラクター 1893 年 3 月 30 日

十字架は……つぶやきや不平をもらすことなく掲げ、身に負われるべきである。これを掲げる行動によって、十字架があなたを高めることにあなたは気づく。十字架はいつくしみと思いやり、また憐れみ深い愛に富んでいる。手紙 145、1900 年

十字架を負うことを通して、あなたの経験は、「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる」そしてこの方が生きておられるので「わたしもまた生きるのである」とあなたが言うことのできるものとなるであろう。これは何というすばらしい保証であろうか。原稿 85j901 年

十字架を負うて自己を捨てる

「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」(ガラテヤ 2:20 欽定訳)

キリストは墮落した人類のために十字架にかかられた。しかしクリスチャンと自称する多くの人にとって、この出来事は大切なこととは思われない。彼らは実際上キリストの十字架を否定している。……彼らはキリストが十字架上で死なれたことを認めるが、自分たちも処刑されなければならないので、克己と自己犠牲へと導く教訓を受け入れようとしな。彼は名だけのクリスチャンである。彼らの信仰の中心点は、十字架に掛けられ、よみがえられた救い主、ご自分を受け入れるすべての者に、神の息子娘となる特権をもたらすお方ではない。ユース・インストラクター 1898 年 7 月 7 日

天国と永遠の命と交換に罪の快樂をあきらめなさい。忠実な魂を待ち受ける無上の喜びが続く永遠に対して、本当の幸福をひとしずくも含んでいない、利己的な満足感にひたる数日間がいったい何であろうか。キリストの愛をあなたの魂から遠ざけてはならない。あなたがその愛のはっきりとした証拠を望むなら、カルバリーの十字架を見なさい。天はあなたがすることを見ようと、強い関心をもってあなたを見ている。あなたが自分に提供される祝福から無関心に向きを変えるとき、天使は驚く。もしあなたがキリストの引き寄せる愛に応えるのを拒むなら、ついに反抗的な挑戦的な者になる。ユース・インストラクター 1898 年 3 月 2 日

パウロは彼の力が、自分自身の中にあるのではなく、聖霊のご臨在の中にある、その尊い感化力が彼の心を満ちし、一つ一つの思いをキリストに服従させてくださることを知った。

……使徒パウロの教えにおいては、キリストが中心人物であつた。「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」と彼は言った。自己は隠されて、キリストがあらわれ、高められた。患難から栄光へ上巻 p272

他の人々に善を行うために自己を否定する者、キリストの奉仕のために自分が持っている物すべてと自分自身を捧げる者は、利己的な人がむなしく探し求めているその幸福をはっきり理解するようになる。教会への証 3 巻 p397

十字架を負いキリストに従う

「わたしの羊はわたしの声に聞き従う。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしについて来る。」(ヨハネ 10:27)

私たちには忠実な友がおられ、その方は天の宮廷で、天使と親しい交わりをするのにふさわしい気高い高められた品性を、私たちに分け与えてくださることを知るというのは何と尊いことであろうか。このお方の保護はその子らを皆おっており、彼らは世が与えることも取り去ることもできない平安を持つ。地上の宝を失っても彼らは望みをなくしたり、故郷を失ったりはしない。キリストは地上の宝を求めて、熱心に探し続ける世をじっと見ておられる。多くの者が熱心にまず一つの事を試み、続いて自分がどうしても欲しいと考える地上の宝を手に入れるために、努力して別のものを試してみるが、それは彼らの利己的な貪欲を満足させるものであり、熱心に追い求めることによって、真に富む者へと導く唯一の道を通り過ぎてしまう。

権威を持っているお方として、キリストはそのような人々に、ご自分に従うようにと招き、永遠に持ちこたえる富へ彼らを導くと申し出られる。彼らに克己と犠牲の狭い道を示される。あらゆる障害を克服しつつ、この道を押し進む人々は栄光の地に到着する。十字架を掲げつつ、彼らは、十字架が自分を掲げ、ついには朽ちることのない宝を得ることに気づく。

多くの者は地上の富に保証があると考え。しかしキリストは彼らの目から、視力をくもらせるちりを取り除こうとされる。そうすることにより、彼は永遠の栄光の重みをはるかによく見ることができるようになる。彼らは幻を現実と取り違えており、永遠の世界の栄光を見失っている。キリストは彼らに、現在を越えて視野を広げ、永遠を見る者になるようにと呼びかけておられる。手紙 264、1903 年

私たちは十字架を掲げ、キリストのみ足の跡に踏み従うべきである。十字架を掲げる者は、これをする時、十字架が自分を掲げ、世の罪を取り除く神の小羊を指し示しつつ、不屈の精神と勇気を与えてくれていることに気づく。レ・ペー・ア・ド・ヘルト 1905 年 7 月 13 日

十字架を避けるなら永遠の命を失う

「また自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない。」
(マタイ 10:38)

ただ二種類の者がいる。……そして不従順の側に身をおく者はみな、サタンの黒い旗のもとに立っており、キリストを拒み悪意をもって扱うことにより彼らは命と栄光の主を意識的に十字架にくぎつけにしている。ビュー・アソッド・ヘラッド 1900年1月30日

十字架を避ける者は忠実な者に約束された報いを遠ざける。手紙 144、1901年

あなたの心が神の御子の驚くべき愛で溶けるまでカルバリーを見なさい。このお方は堕落した人間が高められ純潔にされることは何一つさし控えることをされなかった。それならば私たちはこのお方に告白しないのだろうか。キリストの宗教は受け入れる者の品位を落とすのだろうか。そうではない。カルバリーのお方の足跡に従うと堕落することはない。日毎にイエスの足元に座って、このお方について学ぼう。そうすれば私たちの会話、行い、衣服、また態度すべてにおいて、イエスが私たちを支配し統治しておられる事実をあらわす。神は、主が贖う者のために定めておられる道を歩むよう、私たちに呼びかけておられる。私たちは世の中を歩くのではなく、神にすべてを捧げ人々の前でキリストを認めるべきである。

「自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない。自分の命を得ているものはそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者はそれを得るであろう。私たちは日毎に十字架を掲げてご主人の足跡に従い、自己を否定すべきである。……」

猶予の期間が閉じられていないことを私は喜ぶ。ナザレのイエス・キリストのみ名によって、岩の上に落ち、砕けよう。柔和と愛、聖なる会話、思いやりの精神をもって人々の前でキリストを認めよう。ああ、聖霊が民に注がれた時、エルサレムであらわされたように、キリストがご自分の栄光をあらわすことのできる立場に、私たちがなれますように。

ビュー・アソッド・ヘラッド 1892年5月10日

カルバリーの十字架は私たちに対する永遠の命についての誓いである。手紙 15、1892年

十字架を負う

「彼らが出て行くと、シモンという名のクレネ人に出会ったので、イエスの十字架を無理に負わせた。」(マタイ 27:32)

苦しみ弱りはてた状態にある救い主には、その荷は重すぎた。弟子たちといっしょに過越の食事をとられてから、イエスは食べることも飲むこともされなかった。イエスは、ゲッセマネの園で、サタンの勢力との戦いに苦しまれた。……恥知らずな裁判の茶番劇の間中ずっと、イエスはしっかりした威厳のある態度を保たれた。

しかし二度目のむち打ちのあと、十字架が主に背負わされると、人性はもはや耐えられなかった。主はその重荷の下に、気を失って倒れてしまわれた。

救い主についてきた群衆は、イエスの弱々しい、よろめく足どりを見たが、何のあわれみも示さなかった。

……迫害者たちは、これ以上イエスが重荷を運ぶことができないことを知った。彼らは、この屈辱的な荷を運んでくれる者をさがすのに困惑した。ユダヤ人自身がそうするわけにいなかった。

この時、いなかからやって来たクレネ人のシモンという他国人が群衆に行き会う。彼は群衆の口汚いののしりの声を耳にする。いかに軽蔑したように、ユダヤ人の王さまのお通りだぞという言葉がくりかえされるのが聞こえる。彼はその場の光景に驚いて立ちどまる。シモンが同情した顔つきをしていると、人々は彼をつかまえて、その肩に十字架をのせる。

シモンはイエスのことを聞いていた。彼の息子たちは救い主の信者であったが、彼自身は弟子ではなかった。

カルバリーまで十字架をかついで行ったことは、シモンにとって恵みであった。彼はその後いつもこの摂理を感謝した。彼はこの経験から自ら進んでキリストの十字架を背負い、その重荷によるこんで耐えるようになった。各時代の希望下巻 p 258、259

シモンが負うよう強制された十字架は彼の回心的手段となった。彼の同情心はイエスに味方して、深くゆり動かされた。そしてカルバリーの出来事、また救い主が口にされた言葉は、このお方が神の御子であることを彼が認める原因となった。原稿 127、日付未記

死にかかったどろぼうは キリストを自分の救い主として受け入れる

「そして言った、『イエスよ、あなたが御国の権威をもっておいでになる時には、わたしを思い出してください。』」（ルカ 23:42）

みわぎの最後までキリストは罪を許すお方である。ベツレヘムの星である方が真暗闇の中に沈もうとしている時に、見よ、道徳的暗闇のただ中に、死にかかったどろぼうが瀕死の救い主をしっかりとつかむ時、彼の信仰ははっきりとした明るさで輝く。

そのような信仰は長い時間働いた労働者と同じ多くの報酬を受ける午後5時から働いた労働者によって表わすことができる。どろぼうは信仰と悔い改めと悔恨のうちに求めた。彼はもしイエスが望まれれば自分を救うことがおできになることを、はっきりと気づいているかのように、熱心に求めた。そして彼の口調の中にある希望には、もしイエスが救って下さらなければ、自分は永遠に失われてしまうことに、彼が気づいた時、苦痛が混ざった。彼は自分の無力な死にかかった魂と体をイエス・キリストにあずけた。原稿 52 1897 年

彼はピラトが、「この人になんの罪も見いだせない」と断言するのを聞いた（ヨハネ 19:4）。彼はイエスの神々しい態度に目をとめ、イエスが迫害者たちをあわれんでゆるされるのを見た。……通りかかった人々の中で、多くの人がイエスを弁護するのを、彼は耳にする。彼らがイエスのことばをくりかえし、イエスのみわぎについて語るのを、彼は聞く。これがキリストだという自覚が彼の心によみがえる。……有罪を宣告された時、このどろぼうは絶望し、自暴自棄になった。しかしま、ふしぎな、やさしい思いがわきあがってくる。彼は、イエスが病人をいやし、罪をゆるされたことなど、イエスについて聞いたことをみな心に思い起こす。彼は、イエスを信じて泣きながらついてきた人たちのことばを聞いた。……聖霊は彼の心を照らし、すこしずつ証拠の鎖がつながる。打たれ、あざけられ、十字架にかけられているイエスのうちに彼は、世の罪をとり除く神の小羊を見る。死にかけている無力な魂が、瀕死の救い主に身をまかせると、彼の声には苦悩の中に望みがまじる。

……すぐに応答があった。その調子はやわらかく、音楽のようで、そのことばは愛とあわれみと力に満ちていた。きょう、よく言うておくが、あなたはわたしと一緒にパラダイスにいてであろう。……神に受け入れられたという完全な平安が悔い改めたどろぼうにのぞんだ。各時代の希望下巻 268, 271

Good Way Series 研究 3-3



キリストが 戸をたたいておられる (Ⅲ)

2. 発展する論争

「サタンの側で論争はますます激しくなるであろう。なぜなら、彼は下からの力によって動いているからである。神の民の働きが、神のみ座からの力によって、聖化された抵抗できない強い勢力をもって前進し、教会の中にキリストの義という旗印を打ち立てるとき、大争闘はますます激しくなり、ますます断固たるものとなっていく。頭脳は頭脳に対して、計画は計画に対して、天に由来するものものの支配に対してサタンの支配が戦列を組む。さまざまな局面にある真理は、たえず多岐にわたり増し加わる形態の誤謬から戦いを挑まれ、もし可能であれば、選民をも惑わそうとする。…

真理を教えるが、自分たちの道を神の前に完全にしていない人々、自分たちの欠点を隠そうとし、神からの離反を奨励する人々がいる。…彼らは改革の必要を認めない。…主が送られる訓告に注意を払うことを拒むこと自体が、彼らを自分たちに真理を語ってくれた人々の最も苦い敵にするために、サタンをあらゆる優位性を与える。彼らは主からのメッセージを担ってきた人々を偽り伝える者となる。…聖化されていない牧師たちが自ら神に敵対して隊列を組む。彼らは同じ息から、キリストとこの世の神を賛美している。キリストを受け入れると公言しながら、彼らはバラバを擁護し、自分たちの行為によって、「その人ではなく、バラバを」と言っている。すべての人はこれらの文章を読んで注意を払われたい。サタンは自分のできることを自慢してきた。彼はキリストが教会の中に存在するようにと祈られた一致を解消しようと考えている。彼は、「わたしは出て行って、わたしが欺ける者を欺くために偽りの霊となり、批判し、有罪に定め、偽りの証言

をしよう」。欺瞞と偽りの証人の子らが、大いなる光、大いなる証拠を持ってきた教会に楽しませられるままにしないで。そのときその教会は主が送ってこられたメッセージを捨て、もっとも不合理な主張や偽りの推測、また偽りの理論を受け入れるであろう。サタンは彼らの愚かさを笑う。なぜなら、彼は何が真理であるかを知っているからである。多くの人々は、サタンの黄泉のともしびから灯された偽りの預言というともしびを自分の手にもって、わたしたちの講壇に立つ。…神はもし聴衆がご自分の御声やご自分のメッセージに注意を払わないならば、彼らの耳をうずかせる。このお方は神のみ言葉に抵抗する人々を非難する。サタンは民としてわたしたちの間に、わたしたちをとがめ譴責し、自分たちの誤謬を捨て去るように訓告するものが何も入らないように可能な限りの手段をならべてきた。しかし神の契約の箱を担う民がいる。…彼らは主の言葉を宣布する。彼らはラッパのように自分たちの声を上げる。真理は彼らの手のうちで減じたり、失われたりしない。彼らは民にそのとがを示し、ヤコブの家にその罪を示す。論争はますます激しくなっていく。サタンは競技を始め、キリストの役を演じる。…今は真理を信じると主張しているが、錨を持っていない多くの人々はサタンの部隊に束ねられるようになる。…光を拒んだこれらの人々は、不毛な砂漠でありつづけ、そこには精神にするいやしの水は流れない。そして彼らの働きはギルボアの丘のような潤いのない不毛の地であって、露も雨もないのである。」(牧師への証 407-413 (1898 年).)

「エルサレムのために泣かれたキリストの涙は、また今日大いなる光を持ってきた人々、そしてキリストの力と善のすばらしい表われを見てきたが、自分たちのための神のご目的をはたしてこなかった人々のためである。神のみ声を聞き、このお方と協力する人々、このお方の奉仕において自分たちの能力を用いる人々はこのお方の祝福を受けるようになる。しかし、このお方の指示を忘れ、自分自身の方法に従う人は、神にとって侮辱である。彼らの一連の悪い行為に、その結果と責任と共に直面しなければならない時が来る。わたしたちの働きにおいて今日、キリストが当時直面されたのと同じ精神に直面するであろう。…光と証拠を受けてきたが、自分たちのゆがんだ拒絶のうちに、自分たち自身の計画と調和しないものは何でも拒み、あくまでも断固として自分自身のやり方に従う人々に、わたしたちは会おうことであろう。彼らは自ら真理を受け入れることを拒み、また他の人々が主のみ言葉を無関心に見るよう導くために力を尽くすのである。」(ビュー

・アンド・ヘラルト 1902 年 12 月 2 日)

3. 分裂

以前述べたように (各時代の犬争闘下巻 35 参照)、改革の働きにおいて、歴史は繰り返します。これは背信が分離を引き起こすという点からも真実です。主の僕は次のように記しました。

「わたしの心は日々、夜々、わたしたちの教会のために痛みをおぼえている。多くの人々は進んでいるが、後ろの足跡の中なのである。…彼らが本当のクリスチャンとならないかぎり、弱さから弱さへと進み、分裂が増えていき、多くの魂が減びへと導かれるであろう。」(教会への証 5 巻 93)

...

まことの証人の勧告であるラオデキヤへのメッセージは教会を、区別された二つの群れに分けます。それらの群れのうち一つだけが、すなわち黙示録 18 章の御使によって象徴されており、リバイバルと改革の働きを実行していくものとして言及されています。この働きにおいて、黙示録 3:18 のメッセージ、すなわちイザヤ 58:1-14 と手に手を携えていくメッセージは (牧師へ証 296)、後の雨を受けるために人々を準備させるのです。

ことでしょう。そして今、第7日目に、神様と彼らは共に休むのでした。聖書は、「神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終って第七日に休まれた。神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造のわざを終って休まれたからである」とのべています。神さまは、疲れたから休まれたのではありませんでした。なぜなら、神さまは疲れることがないからです。むしろ、このお方は創造のはたらきが終わったから休まれたのです。世界は、神さまがお造りになることができるほど完全でした。神さまのみ思いの中にあつたご目的をはたすために、これ以上おできになることは何もありませんでした。このお方が休まれたのはまた、アダムとエバのために、そしてあとに続く彼らの子供たちのために模範を残したかったからです。みなさんもおわかりになるように、神さまはこの日に「休まれた」だけでなく、それを「祝福して」また「聖別され」ました。これによって、はっきりと、神さまがご自分のことを考えておられたのではなく、ご自分の地上の子らのことを考えておられたことがわかります。このお方は安息日を祝福されました。それは、この日が彼らにとって祝福となるためでした。このお方は安息日を「聖別され」ましたつまり、聖なる日としてとっておかれましたが、それはご自分のためではなく、彼らのためでした。そして6000年たった今日でさえ、第7日目を聖とする人々は、安息日の中に、他の人は決して知ることのできない祝福をみだすのです！はじめに、神さまがアダムとエバにお与えになったご計画に彼らが従うとき、なにかすばらしい方法で、天の平和と幸福が彼らの心のうちにもたらされます。

そして、今もう一度、わたしたちはずっとむかしの静かな夕べに、彼らが自分たちの創造主のみ声にかしこみつつ耳を傾け、自分たちの地上におけるまさに初日が聖日となり、神さまと共に過ごす日となるべきことを知るのを見るのです。

かぼちゃ豆腐チーズもち

■材料 (2 人前)

カボチャ	1/4 個
砂糖	小さじ 1
片栗粉	大さじ 1
オリーブオイル	10g
豆腐チーズ	50g

■作り方

1. カボチャは皮をむき、蒸してマッシュします。
2. カボチャが熱いうちに片栗粉・砂糖を加え、まとめるように混ぜ合わせます。
3. 2 を一口大の大きさに丸め、平らにしたら真ん中にチーズを入れ、包み込みます。
4. フライパンにオリーブオイルを入れ、熱したら 3 を表面がカリッとなるまで焼いて完成です。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート2 第3話

覚えるべき日(1)

創造の週の6日目に太陽がしずむとき、すばらしい静けさがすべての田園風景の上にのぞみました。

だんだんと鳥のさえずりや森の中の動物の鳴き声が小さくなっていき、ついには完全な静けさがおとずれて星があらわれ、自然界すべてが輝かしい月明りにひたりました。

園のどこかで、おそらくはうるわしいこけのむした空き地に座って、アダムとエバは、自分たちの過ごしたその日の栄光、夕べの美しさに感嘆しながら、座っていました。

とつぜん、沈黙の中から、やさしくて、親切で、音楽のような声が聞こえてきました。彼らはすぐにそれが神さまのみ声だとわかりました。その

とき、神さまが彼らに語られたのでした。神さまは彼らに語ってこられたにちがいありません。そうでなければ、どうして彼らにわかるのでしょうか。この新しい日、彼らが地上で過ごした第1日目は聖なる日となるのでした。神さまは彼らにまた、まわりにあるすべてのものをどのように6日間のうちに創造なさったのかを語られ



(43 ページに続く)